

平成24年度 学校関係者評価（学校評議員会より）

岩手県立宮古工業高等学校

- 1 日 時 平成25年2月26日（火）13:00～14:30
- 2 場 所 本校校長室
- 3 学校評議員

伊藤 恒夫（宮古市産業支援センター：地域代表）

久保田 均（津軽石公民館長：地域代表）

笹川 正（津軽石中学校長）

中西 佳子（会社員：前PTA会長）

小鯖 剛（会社役員：同窓会役員）

4 説明内容

学校経営計画、学校概要・学校自己評価の説明

5 学校評議員からの意見、評価等

学校評価集計結果（生徒）について、相対的に判定Aが少なく判定Bが多い。これから評価が高くなるように目標を設定して、可もなく不可もなく出来るだけA判定の数が増えていく努力をしてもらいたい。

生徒指導、進路指導、Aランクに上がっている。部活動などの活躍など頑張っている。

生徒の評価を中心に見ているとHR活動や勉強、部活動をしたいというのが伺える。太鼓やクリーン作戦も十分な評価である。このことが自信に繋がればいい。津軽石中学生も工業高校に目を向けてくれるといい。

学校に対する親の協力を求めたい。

津波模型など工業高校の良さを地元の子供達にアピールするなどすれば全体の評価が上がるはず。

鮭の街復興大作戦（クリーン作戦）はとってもいいことなのでこれからも続けてもらいたい。

工業高校を地域になくしてはならない学校にする。地元就職が多いのは工業高校である。家庭と学校の連携を図る事が大事だ。

地域密着型で、ものづくりを通してながら地元がいい人材を残していく学校の役割を考えてもらいたい。

基礎学力を大切にしながら、工業としてのキャリア教育を進め今後も頑張ってもらいたい。